



華人華僑とモンゴル帝国史

学部生 : 野中、羽田、山埜、渡辺
大学院生 : 森、杉、森田、呉、吉中
修了生 : 光永
指導教員 : 金美徳、水盛涼一

2017年～2021年 論文のテーマ

2017

「モンゴル帝国のユーラシア興隆史」 107ページ

2018

「モンゴル帝国の興隆と衰退」 244ページ

2019

「モンゴル帝国と朝鮮半島」 84ページ

2020

「パンデミックのユーラシア史とポストコロナ」 118ページ

2021

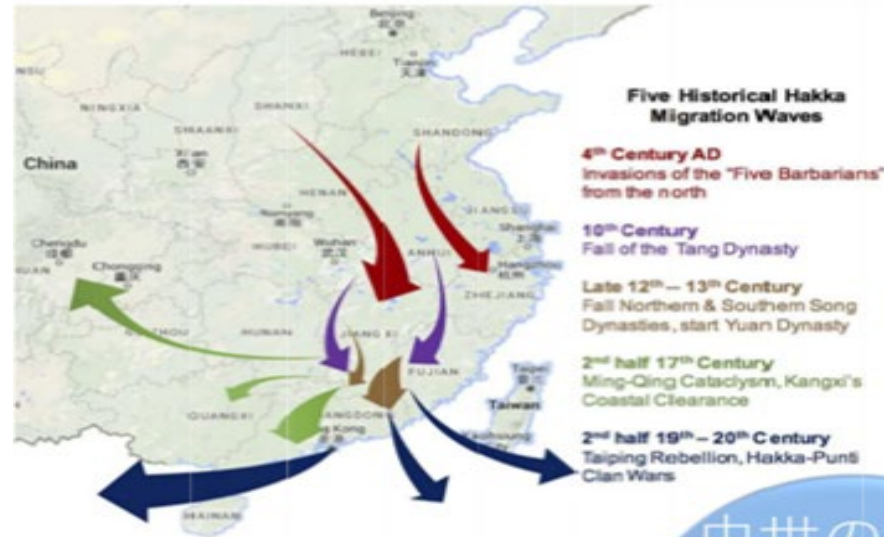
「倭寇とモンゴル帝国史～海洋の渡海民と大陸の遊牧民～」 106ページ

研究目的・方法

- ✓ アジア班が**目指す論文**は、歴史の視点から現代・将来を展望する
- ✓ **文献研究とフィールドワーク**を中心に研究活動を行う
- ✓ **歴史的観点、国際関係論、経営組織論**からも分析する
- ✓ 2021年はモンゴル以後と日本の国際関係の**歴史研究**を通じ、**倭寇とモンゴル帝国史～海洋の渡海民と大陸の遊牧民**を取り上げた

※倭寇は東アジア沿岸諸地域で14～16世紀頃に海賊行為と密貿易を行なう集団

2022年のテーマは華人華僑



相手国の
国内事情

相手国の社会・経済・
文化・国際観念など
「どうして受け入れる？」

「境界人」マージナルマンの実態と変容
……国内移民・国外移民……

東三省・内モンゴ・寧夏・新疆・広西 etc.
東（長崎・横浜・西川口） 西（一带一路）
北（モンゴル・ロシア） 南（アセアン）
+ アフリカ・アメリカ・オーストラリア

中世の移民
貿易商人
華僑

中国の
国内事情

中国の社会・経済・
文化・国際観念など
「なぜ移住する？」

過去現在の
移住者たち

インド（印僑）・客家
ユダヤ（猶僑）・日僑
彼らと比較して……
商売の秘訣・同胞意識は

華人華僑とは

華僑（狭義）： 本人か先祖が中国出身であり中国国籍を持つ在外中国人
華人（広義）： 中国出身で海外で暮らす人と、その子孫

第1期	8～16世紀	交渉期
第2期	16～19世紀半ば	摩擦期
第3期	19世紀半ば～20世紀半ば	競合期
第4期	20世紀半ば～1979年	順応期
第5期	1979年～	同化期（または吸収期）

華人華僑の歴史は1,300年



分布



世界に広がる中国人・中国人系人

Ethnic-Chinese Living Worldwide



単位：万人（数字は一つの目安として理解して下さい）
 出典：『華僑華人概況』九州出版社、2005年等より。

世界にはおよそ9,000万人の華人華僑が存在していると言われる
 このうち東南アジアに4,000万人が暮らす

知られざる華僑の歴史をつぶさに… 神戸華僑歴史博物館 The Undiscovered History of the Overseas Chinese Unveiled in Kobe

神戸華僑歴史博物館は、1979年10月、神戸中華総商会ビル（KCCビル）が落成したときと同時に開館しました。神戸の華僑が自ら運営にあたる、世界的にも珍しい博物館です。この博物館は、神戸華僑の生活と活動について、美術品から生活用具まで貴重な文物、文献、資料を展示しています。中国人と日本人との交流の足跡をたどり、一般にあまり知られていない華僑の世界を垣間見ることができます。

神戸華僑歴史博物館は1979年10月に神戸中華総商会ビル（KCCビル）落成と同時に開館。神戸華僑が自ら運営する博物館として、世界でも珍しい。この博物館は神戸華僑の生活と活動について、美術品から生活用具まで貴重な文物、文献、資料を展示。中国人と日本人との交流の足跡をたどり、一般にあまり知られていない華僑の世界を垣間見ることができます。

Kobe Overseas Chinese History Museum was opened simultaneously when the Chinese Chamber of Commerce Building was constructed in October 1979. This museum is a unique museum of overseas Chinese not found elsewhere in the world operated solely by the overseas Chinese. This museum displays historical heritage and materials related to the daily life and business activities of Chinese in Kobe. Special accent has been laid on the active interaction of Chinese and Japanese, thus revealing the unveiled aspect of Kobe's overseas Chinese.

年表

世紀	中国・モンゴル帝国	倭寇・海商・華僑	日本
8世紀～ 13世紀	705年 武則天失脚、唐の復活 755年 安史の乱 1271年 元 建国	847年 中国商人 張支信が日本へ来航 1223年 『高麗史』に倭寇の記事がはじめて記載される	894年 遣唐使廃止 1274年 文永の役 1281年 弘安の役
14世紀	1305年 元が5つに分裂 1368年 明 建国 1383年 明で海禁政策開始	1358年 高麗では倭寇により財政が窮乏 1372年 琉球の中山王が明に朝貢 1392年 高麗滅亡、李成桂即位	1350年 倭寇が高麗の各地を襲う（倭寇の活動が激化）
15世紀		(海賊、海商による非公認貿易の時代)	1419年 応永の外寇 1467年 応仁の乱
16世紀	1567年 明が海禁を緩和		
17世紀	1644年 明が滅亡、満州族である清(1616年建国)の時代へ	1624年 オランダが台湾を統治 1661年 鄭成功が台湾を統治	1639年 鎖国
18世紀		1740年 バダヴィアの華僑虐殺事件	
19世紀		1848年 北米でゴールドラッシュ	1858年 日米修好通商条約
20世紀	1911年 辛亥革命 1912年 清が滅亡、中華民国誕生	1942年 シンガポール華僑粛清事件 1965年 9月30日事件	1910年 韓国併合 1972年 日中国交正常化

テーマ構成

1章 モンゴル帝国史と華人華僑のルーツ

2章 各国華人華僑の歴史

3章 現代社会の華人華僑

4章 現代のモンゴルの未裔



第1章：モンゴル帝国史と華人華僑のルーツ

元～清・漢民族の海外移住は、時代背景による特徴と船舶技術進歩が存在

時代背景	モンゴル帝国・元 (13-14C)	明 (14-17C)		清 (17-19C迄の動き)
	陸と海の東西広域ネットワーク	海禁・朝貢貿易体制	1567年・海禁解除後	大量移住の時代・現代華人華僑に繋がる
特徴	<p>1. 商業的移住</p> <p>華南地域沿岸部： ・ムスリム商人コミュニティ ・ウイグル人商人 交易活性 ・インド洋に至る港に滞在 現地女性と結婚→2世3世 華北漢民族に対しても、 交易拠点をつくる移住を奨励</p> <p>2. 異民族（モンゴル）による版図拡大・支配による影響 ・華南地域：東南アジアへの移住 ・華北地域：交易拠点をつくる為の移住を政府が奨励</p>	<p>1. 海禁により東南アジアから戻れず定住</p> <p>2. 朝貢貿易に携わる商業的移住 ・アユタヤ王朝は華人保護 ・ジャワ・スマトラに強大な華人商業地区</p> <p>3. 陸からの移住： 漢民族が雲南へ→ビルマへ</p> <p>4. 生活苦による移住 里甲制による負担増</p> <p>5. 後期倭寇：海商が 東南アジアに居留地形成</p> <p><small>* 朝貢貿易：政府統制下の貿易 * 里甲制：明朝の納税・労役制度</small></p>	<p>1. 商業的移住</p> <p>政策転換にて東南アジアへの移住加速 ・東南アジアで漢民族と日本人が出会い貿易</p> <p>2. ヨーロッパ諸国による東南アジアの植民地化に連動した移住</p> <p>植民地勢力と現地社会の媒介役として居住</p>	<p>1. 商業的移住</p> <p>1656年再び海禁： ・海域支配していた鄭成功封じ込め ・遷界令→展開令（1684年・海禁解除） ・鄭氏勢力のベトナム移住 ・台湾統治した鄭氏が移民を募る</p> <p>2. 異民族支配（満州族）を嫌って海外に移住した人々</p> <p>3. 労働力として移住</p> <p>アヘン戦争前：東南アジア労働力不足 アヘン戦争後：安価な労働力・苦力</p>

船舶技術進歩

ジャンク船



出所：<https://www.dkfindout.com>

鄭和の大航海「宝船」ジャンク船の大型化



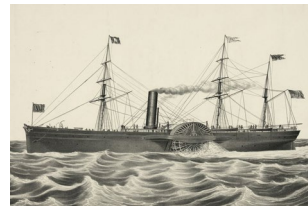
出所：<https://chiculture.org.hk>

琉球の進貢船 明から提供されたジャンク船



出所：筆者撮影

蒸気船登場 ジャンク船衰退 輸送量・頻度UP



出所：<https://www.greelane.com>

第1章：モンゴル帝国史と華人華僑のルーツ

モンゴル帝国の海と陸の交流が移住を加速、コミュニティ→ネットワークへ発展

1. 華南地域沿岸部の漢民族は「海域民」としての意識・行動となっていた

2. 歴史の変遷と共に、漢民族コミュニティから、華人華僑ネットワークへ発展・拡大

3. 華人華僑のルーツ：モンゴル帝国による「交通網の整備」「海と陸の東西交流」の発展があった



コミュニティからネットワークへ



出所：世界の歴史まっぷ

出所：世界の歴史まっぷ

出所：<https://pixta.jp>より筆者作成

第1章：モンゴル帝国史と華人華僑のルーツ

様々な時代の移住者が華人華僑になっていった

1. モンゴル族の侵攻から逃れた漢人が東南アジアへ
2. 元時代の貿易推進策で、広くイスラム商人が活躍し海上貿易が発達。中国大陸の南沿岸部を核に海上貿易の従事者が増加し、東南アジアの各地の拠点に駐在・移住
3. 明の海禁政策下、貿易を続けるために中国大陸から離れた
4. 倭寇の多くは海商でもあり、彼らは表裏一体だった

ヒントとなる資料・文献

寺島実郎(2012)

- ・ 13世紀のモンゴルの侵攻で漢民族を中心に東南アジアへ押し出された
- ・ 明時代、貿易が禁止されても艦隊とともに東南アジアへ人が動いた

可児弘明(2003)

- ・ 華僑の初めは11世紀頃の海上商人
- ・ 出身地は福建省、広東省、広西チワン族自治区

周敏(2009)

- ・ 12-16世紀に海を渡って移民したのはほとんど華人で華商
- ・ 元朝の貿易はロシア、ペルシャまで広がり、アラブ人との通商を進めイスラム教の布教も許した
- ・ 通商禁止後も貿易は続いた『山が高ければ皇帝は遠い』

長谷部茂(2020)

- ・ 元朝の国際貿易が活発化し各地へ渡った閩南の人々が華僑の元。東南アジアで華僑となり、別の一群が台湾人になった
- ・ 閩南人はイスラム商人の船で東南アジア海域での交易を行い、11-12世紀にはイスラム商人に肩を並べるまでになった。海洋貿易がライフスタイルとして確立
- ・ 『海商と倭寇は同一人の両面であり、官が市（交易）を禁ずれば倭寇となり、市を通ずれば（交易を許せば）、海商となる』（明代の武将、胡宗憲の言。浙直総督として、倭寇討伐の最前線にいた。王直を懐柔し処刑）

第2章：各国華人華僑の歴史：タイ



タイにとって華人華僑は、苦手な財政を務める人材として共存

14世紀：華商による貿易の始まり

- タイ領マレー半島の商業港が発達
→ 前期倭寇時代の前に発展していた南シナ海の貿易
- 中国の密貿易（倭寇）
→ 東南アジアに移住する人が増加

18世紀：華僑の台頭

- 戦乱後の疲弊した経済を立て直すため、華人のタイ移住を奨励
→ タークシン王と同郷の潮州人に特権を与える
→ 貿易商人以外の華人が増加（商工業者・経営者・労働者）

16世紀：タイ華僑の同化

- 華商が渡航先で家庭をもつ
→ 一、二代経つと中国の姓を捨てタイの名前に変える人が増加

19～20世紀：華僑問題

- バウリング条約による王室独占貿易の廃止
→ 自由貿易により中国人移民がさらに増加

第2章：各国華人華僑の歴史

移住先の互助組織「幫」が華人華僑の発展を支えた

幫（パン）とは中国で、経済的活動を中心とする互助的な組織・結社・団体。省外や海外などの異郷にあって同業・同郷・同族によって組織される。秘密結社。

→助け合う仲間。秘密を共有する仲間。世界の華人社会に存在

海外拠点に暮らす華人のほとんどが幫に加入。

墨子の思想「義」が影響？

秘密結社誕生→各国へ

以前（7世紀頃）から海上輸送等で幫が活動

洪門（ホンメン）（紅幫）（白蓮教等）、

青幫（チンパン）

- 塩やアヘンの密売等、運輸や通信に優れる。
- モンゴル帝国の支配への反乱も
- 清王朝を倒す為に各国で資金を集める。

海外渡航サービス→各地で援助→幫→秘密結社（チャイニーズ・フリーメイソン）？

第2章 : 各国華人華僑の歴史

モンゴル帝国の麺文化が華人華僑とともに東南アジアに広がった

モンゴル帝国という巨大プラットフォームから発展した麺文化

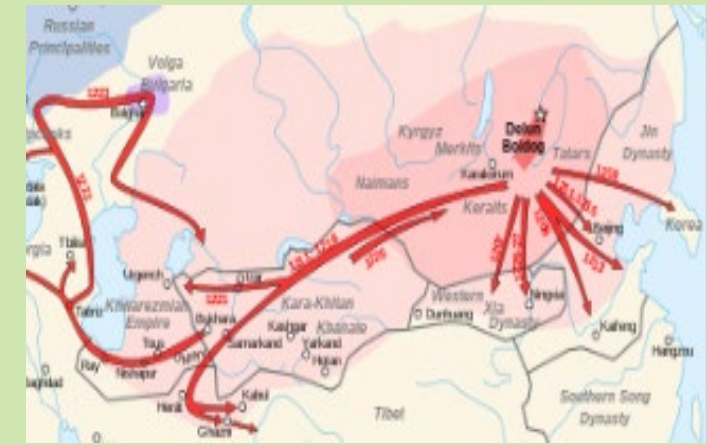


麺の祖先 水引餅(すいいんべい)

元代における南北統合



ジャムチによる交通網整備で東西交易が活発に



タイ : 陸塊経路の伝搬が色濃く反映された麺文化を形成



マレーシア : ラクサ。多民族国家の文化的背景が表れている



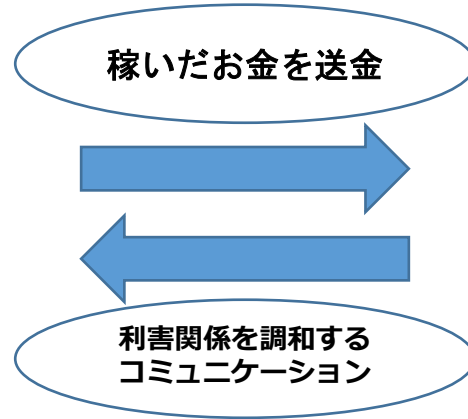
インドネシア : 福建の出自を色濃く反映。カップ麺大国。

第3章：現代社会の華人華僑

移住・定住を繰り返す華人華僑に対し、中国政府は中国への帰属意識を高める政策をとった

◆華人華僑

移住・定住した地域では少数派であったため、財閥企業（ファミリー企業）が発展

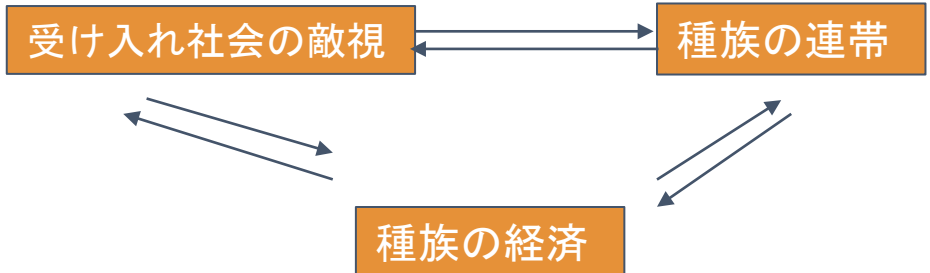


◆中国政府

中国政府にとっては、政治体制が異なる国に住み、稼いだ金を中国本土の親戚に送ってくれる都合の良い存在

- 中国にとって扱いが難しい存在であった華人華僑
 - 改革開放路線を進める際に華人華僑との経済的な関係は重要
 - しかし華人華僑が暮らす国と同じ資本主義体制は目指さない
- 飴と鞭を使いわけ調和を図った
- 中国への帰属意識を高める政策

第二次世界大戦後の東南アジア中国系民の変容するアイデンティティ(ハーシュマン)



第4章：現代のモンゴルの末裔

中国、ロシア2つの大国に分断されながらもしたたかに生きる

(1) 広範囲に広がるモンゴルの末裔たち

(1)モンゴル族 (合計900万人)

- ・モンゴル国：モンゴル人約310万人(国の人口の95%)
- ・中国：内モンゴル自治区に約423万人、遼寧省などに175万人



(2)モンゴル系諸民族 (合計1500万人超)

- ・中国：東郷族、土族など約100万人
- ・ロシア：ブリヤート人約44万人、オイラト人17万人
- ・その他：カザフスタン(カザフ人1300万人)、ウズベキスタン、トルクメニスタンなどが「モンゴル帝国支配者の末裔」を名乗る



(2) 大国政治に翻弄され分割されたモンゴル族

清の一部だったモンゴル地域は、1900年代初頭～第二次大戦にかけて中国(中華民国、中華人民共和国)、ロシア(帝政ロシア、ソビエト連邦)、日本など大国間の駆け引きの中で分割された

モンゴル国 (人口332万人、面積156万km²)

- ・清から独立するが内モンゴルを統合できず→ソ連の衛星国→ソ連崩壊後民主化→中国貿易の依存度上昇
- ・中口の緩衝地帯でもある
- ・ソ連時代から続くロシアの影響、中国への貿易依存度が過度にならないよう、中立外交を強化。米国、日本など「第3の隣国」関係の強化を模索
例：1国として初の非核兵器地帯認定

中国の内モンゴル自治区 (人口2,400万人、面積118万km²)

- ・モンゴル族人口はモンゴル国より多いが、内モンゴル自治区では人口の2割で少数派
- ・2000年に公用語である中国語が義務づけられ、モンゴル語の地位が低下
- ・「少数民族の優等生」とならざるを得なかった。作られた「のどかな大草原」イメージ(×強いモンゴル帝国)
例：中国の牛乳トップブランド「蒙牛」「伊利」

- ★ どこまでが「モンゴルの末裔」か？ ⇒定義はあいまい
- ★ 言語、生活様式など共通点は少ない
- ★ 「モンゴル帝国の支配者の末裔」というルーツに対する意識だけが共通ともいえる
- ★ 多国に存在し、ルーツ意識に支えられる点で、華人華僑との共通点も？

参考文献・論文 -1

分類	著者	出版/掲載年	タイトル	出版社/掲載誌
文献	Jack Weatherford	2019	チンギス・ハンとモンゴル帝国の歩み	パンローリング
文献	Janet L.Abu-Lughod	2001	ヨーロッパ覇権以前(下)	岩波書店
文献	ウィリアム・スキナー	1988	東南アジアの華僑社会:タイにおける進出・適応の歴史	東洋書店
文献	ボルジギン・ブレンサイン編	2015	内モンゴルを知るための60章	明石書店
文献	安井 三吉	2005	帝国日本と華僑	青木書店
文献	黄克武	2021	隠蔽的人群:近代中国的族群与边疆	国家书店
文献	岡本隆司	2021	中国史とつなげて学ぶ 日本全史	東洋経済新報社
文献	可児 明・斯波 義信・游 仲勲 編	2002	華僑・華人事典	弘文堂
文献	海音寺潮五郎	2008	蒙古の襲来	河出書房新社
文献	栗生沢猛夫	2007	タタールのくびきーロシア史におけるモンゴル支配の研究	東京大学出版会
文献	斯波義信	1995	華僑	岩波書店
文献	小長谷有紀・前川愛	2014	現代モンゴルを知るための50章	明石書店
文献	杉山正明	1996	モンゴル帝国の興亡<下>世界経営の時代	講談社
文献	杉山正明	2016	興亡の世界史 モンゴル帝国と長いその後	講談社
文献	川崎有三	1996	東南アジアの中国人社会	山川出版社

参考文献・論文 -2

文献	川崎有三	1996	世界史リブレット39ー東南アジアの中国人社会ー	山川出版社
文献	川勝平太	1999	文明の海へーグローバル日本外史ー	ダイヤモンド社
文献	曹士才・王維	2020	日本華僑社会の歴史と文化ー地域の視点からー	明石書店
文献	太田泰彦	2018	プラナカン	日本経済新聞出版社
文献	田中健夫	2012	倭寇 海の歴史	講談社
文献	楊海英	2021	内モンゴル紛争ー危機の民族地政学	筑摩書房
文献	游仲勳	1990	華僑：ネットワークする経済民族	講談社
文献	赵红英 张春旺	2015	華僑史概要	中国华侨出版社
論文	可児弘明	2003	「華僑」研究のすすめ	敬愛大学国際研究 第11号 2003年3月 Page29ー
論文	関戸明子	2001	横浜中華街における華僑・華人の生活様式の変容	群馬大学教育学部紀要
論文	高橋保	1968	アユタヤ朝時代におけるタイ華僑の発展	アジア経済研究所
論文	斯波義信	1999	東アジアにおける国際経済のルーツ	城西大学大学院研究年報15(2)号 1999年3月Page 57ー
論文	施雪琴・守政毅	2009	現代中国女性の東南アジア移動とその影響	立命館国際地域研究
論文	周敏	2009	華人国際移住の歴史的回顧と社会学的分析	アジア研究 Vol.55, No.2, April 2009
論文	村嶋英治	2002	タイにおける華僑・華人問題	アジア太平洋討究

参考文献・論文 -3

論文	村嶋英治	1996	日タイ同盟とタイ華僑	アジア太平洋研究
論文	中島楽章	2011	14-16世紀,東アジア貿易秩序の変容と再編—朝貢体制から1570年システムへ—	『社会経済史学』76-4 2011年2月
論文	張玉玲	2021	地方における華僑コミュニティの形成と展開	南山大学紀要『アカデミア』人文・自然科学編 第22号, 107—130, 2
論文	長谷部 茂	2020	海洋中国のメインプレーヤー・閩南人の千年史	拓殖大学 台湾研究 第4号 Page109-
論文	陳天璽	1998	儒教文明と華商の経済活動	比較文明 13 Page81-
論文	陳天璽	2002	虹のメタファーに見る華商ネットワークの本質	アジア研究 48 (1), 37-59, 2002
論文	鈴木佑記	2019	移民が形作るタイ-華僑・華人に着目して-	国士舘大学政治研究
論文	城忠彰	2008	モンゴル1国非核兵器地帯創設の意義	国際公共政策研究. 13(1) p.29-p.3